

発行所
カトリック福江教会
 広報委員会
 五島市末広町3-6
 ☎ 0959(72)3957
 ●ホームページ●
<http://fukuechurch.jimdo.com>

降誕祭の候

主任司祭 **中村 満**

クリスマスと新年のお慶びを申し上げます。救い主としてお生まれになった幼子イエス様が、新しい年も共に歩んでくださるよう祈念いたします。

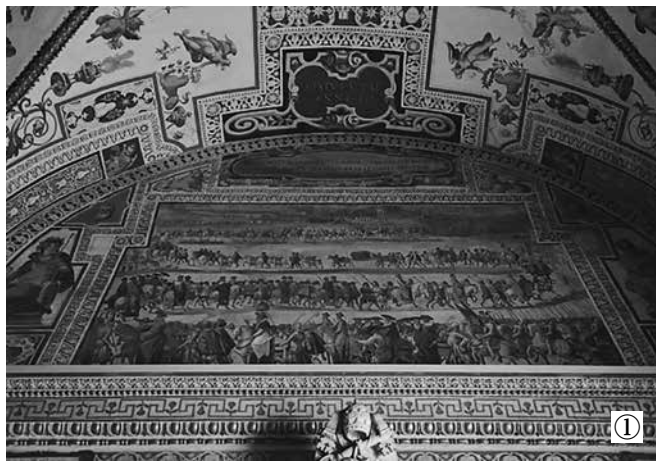
今年の長崎新聞に何回か取り上げられた千々石ミゲル。その墓所と推定される墓の発掘調査が行われたが、確証を得るには至らず、隣にあると推測される墓も発掘すべきだとの報告がなされ、ミゲルの墓の真偽は今後の調査に委ねられた。

ところで、千々石ミゲルは一五八二年二月にローマを目指して長崎の港を出帆した天正遣欧使節の一人である。大村純忠の名代として遣わされ、正使の任にあったと言われる。使節たちはマラッカ、ゴアを経由し、喜望峰を回ってリスボンに

到着。サン・ロケ教会に滞在し、その後フィレンツェを経て目的地ローマ着。出発から早や三年余が経っていた。ローマでは時の教皇、グレゴリウス十三世に謁見し、祝福を受けた。同教皇の急逝により、後継となったシクトゥス五世の戴冠式に参列したが、その式典の様子がバチカン博物館の一つのドアのアーチに描かれて残され、使節たちもその中にいる(写真①)。帰路はイタリア半島の東部を辿り、ベネチア、マントヴァ、ミラノを経由してリスボンに至り、出帆。ゴアを経て長崎に到着したのは一五九〇年だった。八年に及ぶ使節の旅、十数歳の少年たちは青年になっていた。その後、伊藤マンシヨは司祭に叙階されるが、一六一二年に長崎で病死し、原マルチノも叙階されるが、禁教令下で追放され一六二九年マカオで死去した。中浦ジュリアンも叙階され禁教の中にあっても牧者として懸命に働くが、捕えられ一六三三年、西坂で殉教し

た。ジュリアンが二〇〇八年長崎で行われた列福式で一八八福者の列に加えられたのは記憶に新しい。千々石ミゲルは三人と違い、通説では後に棄教したと伝えられているが、真偽はよく分からず、墓の発見かもという話題になった。およそ四〇〇年前の人物が今取り上げられることは興味深い。

使節たちの生き様や信仰が歴史の流れに流れ現在に響いていることを想わせる。また、使節たちが謁見した教皇の名は今も歴史の記憶に留められている。それはグレゴリオ暦として。教皇がそれまでの暦を改定した



ベネチアに残る使節来訪記念の石盤

のは一五八二年。奇しくも使節たちが長崎を出帆した年で、京都では六月に本能寺の変が起きた年でもある。歴史を動かし、歴史が動いたといえる年。クリスマスは一月二十五日に祝っているが、暦を改定したということは、月日は変わらずとも実際の時間軸が数日は動いたことになる。イエス様は二五日に生まれていないかもしれないと発言し、こっぴどくお叱りを受けたことが過去にあるが、この時節になると遣欧使節と教皇、降誕日などのことが脳裏をよぎる。期日にとらわれず、神の救いの計画の中で生起した誕生の出来事こそが秘儀であり、誕生の意味をじっくり味わい、考え、父と子と聖霊への感謝と賛美を捧げることが降誕祭の本来のねらいであり、人として生き、今また私たちと共に歩いてくださる幼子に感謝を捧げることがお祝いの在り様といえると思う。

牢屋の窄殉教祭 2017



去る十月二十九日(日)に牢屋の窄殉教祭が行われた。例年、久賀島の殉教記念教会にて行われる殉教祭であるが、大型の台風二二号により強風と時化に見舞われたため、急遽浜脇教会での記念ミサへと変更された。

記念ミサの冒頭に碑文の朗読があり、その後献花が行われた。中村神父様は説教にて「殉教者達は自分の命を引き換えに、私たちに神様のもとで永遠の命があることを証しして下さった。殉教者たちの取次ぎを願いながら、これからの信仰生活がより良いものとなるよう祈っていきたく」と述べられた。

クルシリヨに参加して

十一月二日〜五日福江教会にて行われた第一四〇回クルシリヨ。県外も含め、合計十九名の信徒(福江教会からは七名)が参加しました。無事に日程を終え、晴れてクルシリスタとなった信徒のうち五名の方に感想を書いて頂きました。

○Penネーム..アグネス書記官様

自分を見つめることは神と向き合うこと...グループ分けの活動を通して人の考えに共感しまとめ上げる作業は困難を要しましたが、達成した後の喜びを分かち合う度に徐々にクルシリヨの意向や信者としての自分の存在意義を感じる.....

牢屋の窄の殉教より今年で一四九年となり、来年は一五〇年目の区切りの年を迎える。今年は、天候不順の影響もあり全体で一五〇名程と少ない参加者に留まったが、来年はより多くの参加者が集まり盛大に殉教祭が行われ、たくさんの方が殉教の地で起こった出来事を知り、その記憶を信仰と共に次の時代へと伝える役割を果たして欲しいと感じた。

ことができました。協力して頂いた方々の支え合いを見習い今後の信仰生活に繋げていきたいと思えます。

○田端さやか様

初めは緊張と不安でいっぱいでしたが、他参加者との関わりを通して笑顔も増えてきました。講和でも多くのことを学び色々な意見を聞くことができました。時計のない生活も経験し、自分を見つめ直すいい機会となりました。参加できてよかったです。これからお祈りを心がけていきたいです。

○Y・K様

クルシリヨに参加してみたの感想はとても不安が多かったです。時間がわからない生活はとてもきつかったです。日を追うごとにそれには少しずつ慣れました。祈りもとても



大切でしたが、講義についてのグループワークも色々深く考えることがあり、すごく勉強になったと思います。またクルシリヨに関わった方々への感謝の気持ちを忘れないうにしたいです。

○M・Y様

クルシリヨに参加して、何をやるのかも分からずに参加しました。一日の始まりは鐘の合図で始まり、鐘の合図で一日を終えました。神父様、奉仕者の講和がわかりやすく説明して頂きました。皆さんと最後まで全コースを終えられた事に、感謝の気持ちでいっぱいです。又、クルシリヨに協力して下さった方々、ありがとうございます。

○熊川いせ子様

今回のクルシリヨに参加する機会を与えて下さり、福江小教区の信徒の皆様や神父様そして小教区役員の皆様に深く感謝を申し上げます。三日間の時間の中で主の御言葉に触れ、「主はここにいます」と胸に手を添える事で心の平安と豊かさを取り戻す事ができました。本当に幸せな体験をする事が出来ました。ありがとうございます。

初聖体式

おめでとう!!

十一月二六日

(日)二番ミサにて初聖体式が行われた。

今年初聖体を授かる子供は男子四名、女子三名の計七名だった。聖体拝領の前



に、中村神父様の導きのもとに子供たちと保護者はろうそくの火を手に神様の前で決意表明を行った。

その後はいよいよ聖体拝領。ぎこちない手で、大切そうに御聖体をいただく様子がどの子供にも見られた。

ミサの最後にお祝いの式が行われ、神父様より子供達にメダイが授与された。カトリック信者として初めて聖体の秘跡を受けた子供達。神様の愛を受けて、健やかで優しい心



を持つ子供として成長してほしい。また、これから親子とも更に教会との繋がりを強くして頂きたい。そんな期待が聖堂内に溢れ、子供達の姿を微笑ましく見つめるたくさんの方々の笑顔が見られた。

保護者代表感謝の言葉



本日、初聖体を迎えました保護者を代表致しまして一言ご挨拶申し上げます。

本日は、このように沢山の信者の皆様方に見守られ、共にお祝いをして頂き誠に有難う御座います。今日の日を迎えるにあたり、七名の子供達は教会学校で頑張ってきました。

ここまで教え導いて下さった中村主任神父様、小島神父様、やさしく寄り添いひとつひとつ教えて下さったシスター方をはじめ沢山の皆様方



リック信者としてこれから担う大切な子供達です。私達も親としての務めを果たせるよう教会とのつながりを大切にしていきたいと思っております。そして、子供達が神様の子供として、また教会の一員として健やかに成長できるよう温かく見守って頂

に心より感謝申し上げます。近年、少子化で教会学校に通う子供達も少なくなっており、ここに在る七名の子供達はカト

「神様を喜ばせるために頑張りたいこと!」



きたいと思えます。どうぞ今後とも皆様方のご指導とご支援を頂きますよう心からお願い申し上げますが、お礼の言葉と代えさせて頂きます。有難う御座いました。保護者代表 小畑勝志

◆ヨアキム

堺 蒼介くん

「ケンカをしない」

◆ヨゼフ

川村 倅賀くん

「口ザリオを頑張る」

◆ミカエル

中村 陽人くん

「教会の中でふざけない」

◆マリウス

入口 陽生くん

「家族や友達を大切に」

◆テレジア

谷川 きらりさん

「聖歌を頑張る」

◆ドミニカ

木戸 ゆうりさん

「ミサにたくさん行く」

◆モニカ

小畑 愛花さん

「物を大切に」

墓地ミサ

十一月三日(金) 桐ヶ丘墓地にて死者のためのミサが執り行われた。ミサに先立って墓地と周辺の草取りなど清掃を行った。その後、中村神父様の司式にてミサが行われた。神父様は「墓地でのミサを通して先祖との繋がりを感じ、信仰の歴史をたどる機会としたい。そして、先祖が辿った信仰の道を振り返りながら、自分の信仰のあり方を振り返る機会として欲しい。」と話された。

十一月の死者の月をより感慨深く過ごすためにも、毎年の墓地ミサはよい機会を与えてくれるように思う。自身の信仰生活について考えるきっかけと思い、是非たくさん信徒に墓地ミサへの参列をして欲しいと思った。



クリスマス馬小屋 & イルミネーション



十二月三日(日) 待降節の始まりの日に、馬小屋作りとイルミネーション飾りつけが行われた。馬小屋は今回大幅なりニューアルをするべく数か月前より中村神父様、岩下副議長を中心に準備が進められてきた。背景をあえてシンプルに(細部にはこだわりがある)する事で、マリア様、ヨゼフ様など御像の存在感が強調され、御降誕の場面が生き生きとして見えるようになった。

一週間前より土台作りからお手伝いして下さった皆様、当日教会周辺やルルドにイルミネーションを装って下さった皆様、有難うございました。皆様のご苦勞を感謝しつつ、新しい馬小屋とイルミネーションを楽しみにご覧になって頂きたいものです。

お知らせ



◆クリスマス(年末年始)のごミサの時間

《クリスマスミサ》

12月24日(日) 午後7時

※ミサ後にぜんざいサービスがあります。

12月25日(月) 午前6時

午前9時

《年末ミサ》

12月31日(日) 午前6時

午前9時

※夜半ミサはありません。

《年始ミサ》

1月1日(月) 午前9時

1月2日(火) 午前9時

1月3日(水) 午前9時

◆今後の日程

●1月14日(日)

小教区定例評議会

馬小屋、イルミネーション撤去

.....

《寄付・香典返し》御礼

.....

○中木家 様

故テレジア 中木テイ子様

○原塚豊 様

故マリア 原塚フミ子様

右記の方から、寄付及び香典返しとしてご芳志を賜りました。

ご報告申し上げますと共に、故人の永遠の安息を心からお祈り申し上げます。

●1月21日(日)
下五島地区合同堅信式
●1月30日(火)
司祭団マラソン大会

編集後記

今年最後の広報誌「こころ」発行となりました。みなさんいかがお過ごしでしょうか。

今年も教会では様々な出来事がありました。そして、来年は福江教会の巡回教会である浜脇教会がある久賀島を含む、潜伏キリシタン関連遺産の世界遺産登録が夏頃に予定されています。また、昨年福江でも上映された映画「沈黙」の中で、五島列島が描かれていた事もあり巡礼目的で五島を訪れる観光客が増加しているように感じます。

長崎と五島の教会とその歴史が注目される中で、私達信徒が「興味がない」「よく知らない」では済まないと思います。先祖が、命をかけて守り伝えてきた信仰とは何か、受け継いだ私達がなすべき事とは…。改めて考え、ほんの少しの行動をするきっかけと捉えたいと思います。そして、広報誌「こころ」がそのお手伝いが出来ればと考えています。

来年もどうぞよろしくお祈りします。